

第12回放射線防護研究会「放射線を測る技術の新展開」

日時：2010年2月20日(土) 13:30～17:00

場所：千代田テクノル本社 2階 会議室

内容：放射線を測る技術には様々なものがあります。現在も、情報処理の高速化等を背景に、より高度な計測技術の開発が世界的に進められています。正確な線量を知るには、場に適合した応答を安定に示す測定器と、測定器の応答と線量の値をつなぐ精密な校正作業が必要になります。本研究会では、測定の対象となる場の多様化を念頭に、測定器と校正の両者について最新の動向を紹介するとともに、これからの展開を論じることとしました。

本研究会では、60名近い出席者を迎え、放射線の計測・校正の分野において第一線で研究をされている先生方から、基調講演2題、トピックス紹介1題、コメンテータとしての報告2題のお話を賜りました。いずれのご講演も示唆に富んだ濃い内容で、終始活発な意見交換が続きました。

以下に講演のタイトルと演者のお名前を記します。

(基調講演)「放射線計測技術の最先端」

高橋浩之・東京大学大学院教授

「放射線校正施設の現状と展望 ―原子力機構が有する標準施設等の概要と今後の展開―」

吉澤道夫(日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所 課長)

(トピックス)「革新的な測定・校正方法 ―放射線を精確に測定するための新しいアプローチ―」

中村秀仁(放射線医学総合研究所 研究基盤部 研究員)

(コメント)「REMAT: Radiation Emergency Medical Assistance Team」

鈴木敏和(放射線医学総合研究所 線量評価部 室長)

「線量測定法と測定器」

中村尚司(東北大学 名誉教授)

【文責:保田浩志(放射線医学総合研究所)】